

4. 終わりに

今回は調査不十分なため、夢前川におけるカゲロウ目の特徴を簡単に述べることはできないが、表2のように、山地流性の種から平地流性の種へ移行していると考えられる。

ところで、水質の判定にはカゲロウ目以外の水生昆虫も考慮しなくてはいけないのだが、カゲロウ目も重要な指標生物の1つなので簡単にふれてみたい。

A~D地点はヒラタカゲロウ科が多く採集できたので、“きれい”といえる。E地点は、ヒラタカゲロウ科も1種だけであり、個体数も少なかったので“や、よごれている”といえるのではないだろうか。

以上、夢前川のカゲロウ目について述べてきたが、まだまだ調査不十分なのでより詳細な調査を進めていきたい。

参考文献

- 津田 松 苗(1962)
水生昆虫学 (北隆館)
- 津田松苗・森下郁子(1974)
生物による水質調査法 (山海堂)
- 森 下 郁 子(1978)
日本の河川 (山海堂)
- 大 沢 尚 文(1980)
尾瀬ヶ原流水のカゲロウ類
昆虫と自然 15(8) 42~44.

(S. 68: Teturo Ueno 姫路市)

アオスジアゲハの冬期の幼虫

近 藤 伸 一

1982年11月14日、自宅付近(神戸市西区)のクスにアオスジアゲハの幼虫がいたので、この時期から蛹化出来るものかどうか興味があり、持ち帰って、屋外のクスにネットをかぶせて観察した。1匹は終令幼虫で、11月26日死亡したが、もう1匹の4令幼虫は、11月23日終令となり、そのままの状態でも蛹化することもなく、1983年1月11日死亡した。秋遅く孵化した個体群は、この様に死亡してしまうものと思われるが、終令のままで1月まで生きていた例として報告する。

なお、この冬は暖かく、1月10日に初めて -0.4°C と氷点下となった。

(S.62: Shinichi Kondo 神戸市)

フタスジカタピロハナカミキリを
坂の谷林道で採集

吉 田 豊

1983年5月29日午前10時半頃、坂の谷林道においてフタスジカタピロハナカミキリを路端のタニウツギに訪花していたのを、ビーティングネットで叩き落して採集。

1983年7月3日午後3時頃、音水谷の伐採後地の斜面で、プロウニングカミキリを採集しましたので報告します。尚、同定につきましては、黒田収氏の多大な御助力をいただきました。

(S.34: Yutaka Yosida 西脇市)

赤西溪谷にて
アカネクスジトラカミキリを採集

花 岡 正

1983年12月4日、赤西溪谷にて、エゾエノキの枯れ枝よりアカネクスジトラカミキリを割り出したので報告する。

地高3m位いの樹上にほぼ水平にぶら下っていた枝で、太さは腕の太さ位이었다。黒田収、吉田豊の両氏と筆者で4♂♂4♀♀の新成虫と、同カミキリの幼虫と思われる個体を3頭割り出した。当日は気温も低かったが、足を動かして少し蛹室をはい出した個体も有った。

(S.19: Tadashi Hanaoka 揖保郡太子町)

ズマルトラカミキリを多数採集

花 岡 正

1983年12月30日、揖保郡御津町室津で、ズマルトラカミキリをアカメガシワより多数割り出したので報告する。県下での記録報告は少なく、西播地方では初記録と思われる。ホストはこれまで、ツバキ、ウメ、ウバメガシなどが報告されているが、1984年1月3日、黒田収、吉田豊両氏と同地を訪れ、エノキ、シイ、ウンシュウミカンからも割り出し、採集数も80頭余りになった。

(S.19: Tadashi Hanaoka 揖保郡太子町)